

令和 6 年度第 3 回名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会 会議録

1 日時 令和 6 年 12 月 24 日（火）午前 10 時～午前 11 時 20 分

2 場所 名古屋市公館 4 階 大会議室

3 出席者 審議会委員 土屋 武志 会長
 南部 初世 委員
 津金 美智子 委員
 小松 尚 委員
 山本 秀雄 委員
 中田 俊夫 委員
 尾関 利昌 委員
 田添 千裕 委員
 梶野 渚 委員
 瀬瀬 みどり 委員
 加藤 雅士 委員
 事務局 総務部長はじめ 11 名

4 傍聴者数 4 名

5 議題

- ・柴田小学校と千鳥小学校及び白水小学校の統合に関する個別プランについて（諮問）（公開）
- ・その他

6 議事

No. 1

発言者	発 言
事務局	お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会を開催いたします。私は進行役を務めさせていただきます教育委員会事務局教育環境整備課長の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 本日は、全委員が出席していただいております、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会条例第 7 条第 2 項により、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。 開会にあたり 3 点ご案内を申し上げます。 1 点目は、ご発言される際のお願いについてです。机上に有線マイクまたは無線マイクを置かせていただいております。お一人ずつマイクをご用意できていないため、恐れ入りますが、ご発言の際にはお二人また

発言者	発 言
	は三人の方でマイクをお使いいただきますよう、お願いいたします。2 点目は災害が発生した時の対応についてです。万一災害が起きた場合の対応ですが、入室された出入口から職員の指示に従って避難していただきますようお願いいたします。 3 点目は会議の公開についてでございます。本審議会は、名古屋市情報公開条例第 36 条の規定により、公開が原則となっております。そのため、非公開情報を審議する場合などを除き、公開とさせていただくことをご了承いただきたく存じます。 本日の傍聴者は 4 名です。傍聴される方をお願いいたします。名古屋市子どもいきいき学校づくり審議会の会議の傍聴要項の規定により、傍聴者は静粛を旨として、配付した資料「傍聴者の方に」に記載のある、会議場における言論に対して拍手その他の手法により公然と可否を表明しないことや、会場内では、写真、ビデオ等の撮影、録音等は行わないこと等を遵守していただき、円滑な議事運営にご協力ください。 それでは開会いたします。初めに、総務部長の木村よりごあいさつを申し上げます。
総務部長	(あいさつ)
事務局	他の公務の都合により、部長はここで退席させていただきます。 それでは、本日の審議会の資料の確認をさせていただきます。 (資料確認) これより先は、土屋会長に議事進行をお願いいたしたく存じます。
会長	次第に入る前に、審議会宛てに 1 件請願がございました。 なお、請願者からの口頭陳述を行いたい旨の申し出はありませんでした。 それでは、請願の審査に入ります。まず、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	お手元に配布の通り、1 件の請願がございます。読み上げてご説明させていただきます。 (事務局による説明) 事務局の方から補足説明をさせていただきます。 今回の統合案においては、統合する学校の校舎等を新たに建て替えることを予定をしています。予定をしておりますが、請願者の主旨といたしましては、建て替え工事の設計図がないと詳細がわからないということ

発言者	発 言
会長	で、統合に合意する判断ができないという主旨でございます。なお、我々として、建て替え工事の設計を行うタイミングにつきましては、最終的に教育委員会として統合を決定して予算化を諮った以降という形になります。また、そのことを、請願者に対しては説明を行っているという状況でございます。事務局からの説明は以上となります。 説明が終わりましたので、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。 よろしいでしょうか。 令和6年度名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会請願第1号について、会議の運営上の関係もありますことから、「ご意見として承る」ということでいかがでしょうか。 (異議なし) ご異議なしと認め、ご意見として承るように取り扱わせていただきます。 それでは本日の審議に入らせていただきます。次第1「柴田小学校と千鳥小学校及び白水小学校の統合に関する個別プラン（諮問）」について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(説明)
会長	ありがとうございました。 これまでも、小学校の統合に関する審議を進めてまいりましたが、【新しい学校づくり】、【施設整備】、【統合に向けた交流連携】、【通学安全】といった観点からご意見をいただいていたかと思います。今回も、そういった観点からご意見をいただければと思います。 それでは、委員の皆様からご意見・ご質問があれば、よろしくお願いいたします。
委員	前回、平田小と浮野小の時も意見を言わせていただきました。ぜひ今後も統合を進めるうえで、子どもの学びを保証するような形、子どもの学びが止まらないような形で進めていただきたいということを一教諭として意見、要望をさせていただければと思いますが、様々地域の方からのご意見もありましたが、小規模校というところをいわゆる単学級と考えたところで、結果的に少人数学級が成立するということで、きめ細かい指導ができるといったメリットがあると思う一方、日々学校生活を送る中で子どもたちの人間関係が固定化されたりだとか、仮に子どもたちの関係の中で上手くいかなかった場合について、解決できなかった

発言者	発 言
	時に学校生活に不安を覚えたりだとか、それを見守る保護者の方も同時に不安を感じることになるのかと思います。なので、私としても子どもたちの実態に応じて学級編成ができる規模が望ましいのではないかと考えています。いずれにしても今後議論を進めていくうえで、子どもたちの生活を中心に据えた視点で丁寧に保護者の方や地域の方々の理解を得ていただきながら、議論を進めていただきたいと思います。
会長	今の意見に補足なりご意見あれば。
委員	今の補足といいますか、やはり少人数だからきめ細やかに見られるというのは非常にメリットとしてあると思いますが、いろんな子と関わる、違った子といろいろな体験をやっていくというのは、小学校の段階では本当に大切なことです。それは人間関係がこじれたから分けられるということだけでなく、よりよい人間関係を築いていくためにも大切です。先ほど知らない人達の中でというのが懸念の声として上がっていましたが、出だし4月に知らない子たちの中に入って、そこでいろいろと自分に合う人とか、少し距離を置く人とかグループ化をはかっていく。そしてまた次の年にその経験を生かして新たな人間関係を構築していくというのは、小学校においては本当に大切な学びになると思っています。そうすると、どうしても学級編成ができる規模というのが必要で、今回の統合というのは、一小一中になってしまい、それはひとつ懸念材料としてあるのかなと思いますが、その一小一中というものと、それでも小学校の時に何クラスかあって、きちんと安定した学級編成がやっていけると考えた時には、やはり小学校の段階で学級編成ができる規模でやっていくということは望ましいのではないかなと小学校に勤めるものとしては思います。
委員	お二人の委員から出ましたご意見に本当に同感でございます。幼児教育に関わっている関係で、やはり幼児教育から小学校教育に繋がっていく時期は、とても重要な時期です。お二人の委員から出ました、多様な体験をするということ、子どもたちが体験を積み重ねていくことはとても大事なことで、その体験を通して多様な人々と関わるということが人間関係にはとても重要なことと思っています。その中で、小学校は、様々な先生方、小学校を取り巻く地域の方々にあたたかく見守られて、そして地域に関わるという中でいろいろな人と繋がりを作っていくとても重要な場であるかなと考えております。先ほど学びの繋がりというか、学びを止めないということもおっしゃってくださいました。今の子どもたちが将来大人になっていく時代はどんな時代になっているかというと、AI が非常に利活用されていくような時代になっていくかなと思いますと、小学校における学校の ICT に関わる環境整備といったものも

発言者	発 言
会長	必要になってくるかと思しますので、そういった視点からも検討していただければと思っております。 いかがでしょうか。この審議会が始まる時に、学級編成であまりにも小規模だと、学びの質をこれ以上充実させていくこともなかなか支障があるということで多様な人間関係作りとか、多様な人たちとの関係性というものが非常に貴重であるということで、専門的な意見を賜ったうえでこの審議会を進めているということでございますので、必ず心配な部分が出てくるとは思いますが、小規模の方がいいのではないかとのご心配というか、そちらの方がいいんじゃないかというご意見も出てくる訳ですけども、やはり日本の学校の特徴は、授業だけでなく特別活動とか行事とかいろいろなものがあって、それを充実させるという意味ではある程度の学校規模という前提があると思います。教育委員会の方でも、そのような説明、学びの充実の規模というか地域との対話の中での教育委員会としても方針があると思っておりますが、そういうことでよろしいか。確認させていただければと思います。
事務局	今、学校の規模について地域の方へどのような説明をしているかというご質問いただきました。我々子どもいきいき学校づくり計画というものを令和元年度に策定して、学校の方にもこういった計画があると周知をさせていただいているところでございます。今様々委員の方からご意見いただきましたけれども、確かに小規模校の方が人数が少なくて一人一人目が行き届きやすいと言ったメリットがあろうかと思っておりますけれども、会長さんのおっしゃられたように学校行事をはじめとして、音楽の授業ですとか体育の授業とかで規模そのものが課題となって活動に制限されることも生じます。統合によって、クラス替えができるようになるという規模が確保される中で、人間関係の固定化を解消したりですとか、新しい友達ができるということで、一人一人の子どもたちが目を輝かせて学校に来ることができるのかなと考えまして、我々としてはこの計画を進めているというところでございます。 これまでに計画に基づいて開校いたしました、中区丸の内小学校でもアンケートをとっておりますが、参考資料の3の裏面の方にアンケート結果を載せておりますが、令和5年4月に統合、開校した丸の内小のアンケート結果ということで、子どもにとってアンケートで人数が増えたけれどもどう思いますかという質問に対して、良かった、まあまあ良かったという回答が8～9割占めていることもありますし、保護者の方も通学の心配もいただいていたかと思っておりますけれども、慣れましたかという質問に対しては、慣れたという回答をいただいております。こうしたところから、我々としても統合開校した学校の児童の方、保護者の方からも統合してよかったというご意見をいただいておりますのでござ

発言者	発 言
会長	いますので、今後も学校規模の確保によって子どもたちの教育環境の確保をより望ましいものにしていきたいと考えております。 ありがとうございます。参考資料の一番後ろの丸の内小のアンケート結果という事でした。これでもよくなかったとか、あまりよくなかったとか、学校の授業作りとか学校作りとか我々の範疇は超えますが、その後の学校作りは指導部との連携はとりながら進めていると理解してよろしいでしょうか。
事務局	学校の教員を続けていたという経験をもとに話をさせていただきます。今、名古屋の学校は全体として、コンパスプランということで学習を進めていくことになっています。そのなかでどの学校も取り組んでいるところではありますが、画一な学びだけではなくてそこから脱却をして、個別最適化、それぞれ自分で課題を見つけることや、学び方も自分で決める、学ぶ場所も自分で決めるということを進めていると思いますので、統合校も同じようにそういった学びをやっているといっていると捉えています。 先ほどの委員の皆さんからの話の中で付け足しさせていただくと、小規模校は一定程度子どもの数がとっても少なくなれば目が行き届きやすいということはあると思いますが、それが2クラスや1クラスの12学級より少し学級数が少ない場合には、人数が多い学級は35人に近いたくさんの人数を先生一人で見ないといけない。逆に2クラスに分かれる学級は20人そこそこの人数になっていくということで小さくなりすぎてしまうと一定程度目が行き届くという事はありますが、何が自分として大事なのかと考えると、行事とかそういった場面で、たくさんの人数の中で子どもたちがいろいろな経験で悩み、課題を解決していくことで、子どもたちの成長は大きいものがあると思うんです。なので規模としては、一定の規模があるということとはとても大事なのではないかなと思っています。あと、子どもたちにとって小規模であれば先生の数に限られた人数になってきてしまう。その中で一定の規模であれば、学級数も増えるので先生の数も職員の数も増えていくことになります。そうすると子どもたちが学校の中で関わる大人の数も増えてくる。先生の配置にしても男女バランスがとれたり、年齢もベテランから若手、中堅とバランスがとれた職員の配置もできていく。ということを見ると子どもがいろいろな大人と関わって成長していくためには一定の規模があるということがとても大切なことではないかと考えています。
会長	ありがとうございました。今回は3校を1つにすること。今までの2校を1校にと違う部分もあるかと思うが、基本的に子ども中心で統合は考えて今後進めていく、まずはここで統合するかどうかを決めな

発言者	発 言
委員	いと進めないと思いますので、統合するかどうかの審議がここで行われているという状況ですので、統合校の取組みは教育委員会の方でされていくということで理解しました。今までの中でご質問やご意見はございますでしょうか。 幼稚園の保護者というところから意見させていただきます。教育の専門ではないので、難しいことはわかりませんが、0歳、1歳、2歳の育児の中で先回り育児という言葉が最近聞くようになってきて、親が子どもを守らなきゃいけないというところから、揉めそうになるとすぐに止める。すべり台の上から行きたい子と上ってくる子がいたら、何か起きる前に危ないよと止めてしまう。そういう事が、小学校に行って人数があまりにも少なすぎると、そこでも起きてしまうのではないかなと感じました。クラスの中に17人とか16人しかいない状態でみんな子どもたちを先生がみている状態で、ちょっとでも揉めそうな時に先生だったら止めるのかなと思いますし、それって経験を減らしているのかなと感じますし、それはきめ細やかな対応になるのかなと思うと、やっぱり疑問を感じます。1年生30人、2年生以上35人でお聞きしていますが、その限度として先生が見る、子どもたちがその中で喧嘩したりとかいろいろなことがあって成長していく中でしたら、あんまりにも人数が少ない小さい学校って成長していけるのかなと疑問に感じました。
会長	これから小学校へ行かせる保護者の視点という事でございました。
委員	小学校、中学校の子どもを持つという経験からですが、やはり統合に向けての話し合いの中で、ご意見にも上がっておりますが保護者の不安としましては、やはり通学路が変更されていくことに不安を抱くと思います。通学路に関しては、PTAの立場としては年間3回ほどパトロールを行ったり、危険箇所マップを作ったりというような保護者も地域の方に目を向けて活動しているところもございますので、そういった意見も含めながら、地域に沿った安全対策をやっていただけるとありがたいと思いますし、信号機のこともありましたが、歩車分離の信号機も増えてきましたが、なかなか慣れないと事故を起こしてしまうということもございました。私の地域でも、今となってはとても安全に活用できているところですが、新しい導入時については、そういった部分にも目を向けていけるといいのかなというふうにも思います。また、通学路の距離に関しては確かに距離が長くなり、猛暑が続く中での熱中症対策について地域の方からのご意見もありますが、学校も熱中症対策に関しては様々な取り組みをしております。日傘を使ったりとか、ネッククールを巻いていこうねとかいろんな対策をしており、また地域の中で協力できるお店を増やしているということもあるかなと思います。子ども110

発言者	発 言
委員	番という活動もPTAとして進めているところです。子どもたちが危険な目にあって駆け込むのではなくて、何か困った時に駆け込める場所を地域の中に作っていくという取り組みをしていくのも、あたたかい地域で見守っていくという環境で育った子どもたちにはいいのかなと思いますので、子ども110番の設置を進めていくという取り組みもすすめていただけたらなとも考えております。 また、PTAとしてもそうですが、保護者同士のつながりというものが、少人数の中でとなってしまうと、意見がぶつかった時に何か固定してしまうということが出てきがちかなとも思いますので、大人もたくさん交流できる場所を持つ、この3学区の中でたくさんの大人たちが交流できる場所があるということが、一緒に子どもたちを育てていく場所になっていくのではないかなというふうにも思います。あと、学区のなかで、小学校というのはとても大事な存在だと思います。小学校の統合を進めていく中で、跡地の活用についてというところについても、防災の観点からもそうですし、地域活動をする場所においても、地域に開かれた場所があるというのはとても地域の活性化にもつながっていくことだと思います。是非、そういった地域に根差した跡地の活用だったりとか、場所となるようご理解を得られるように話し合いを進めていただけたらと感じております。 柴田小、白水小、千鳥小の人数を見たときに、ちょうどいい気がしちゃったんです。私自身も、笹島小中学校で合併を経験しておりまして、その当時は一桁とか10何人の児童数だったので、もちろん反対意見もありましたが合併も仕方ないなと思ったんですが、柴田小学校の人数をみると20人台が結構ありますし、千鳥小学校の方は2学級の学年もあるということで、地域の人達の気持ちとするとまだしなくていいんじゃないかという気持ちもあると思うんです。先ほど冒頭に伊勢湾台風の被害が激しかったという話も聞きましたので、たぶんこの3学区は、とても防災意識もすごく高くて地域で子どもたちを守っているというプライドがある学区のように思えるので、やはり反対意見が出て当然だなと思います。私も合併を経験しているからこそ思うんです。でも、先ほど先生方がおっしゃられたように、やっぱり人数が増えるということってすごく大切な事と思うんです。1桁の生徒数でやっているよりも、今、正直、笹島小中学校は合併しても1クラスなんですけど、今もし合併していなかったらと思うと1桁の子どもたちでやっているかと思うとぞっとします。今30人前後いますけれど、そうするとやっぱりクラスでもいろいろなグループができますので、人数がたくさんいるということは小学校において必要な事だと思いますので、先ほど先生方がおっしゃられたような説明を、地域みなさんに、もちろん今までもされていると思いますが、丁寧に丁寧にさせていただいて、あまりにも反対意見があ

発言者	発 言
事務局	ると、子どもたちもちろん不安になると思いますし、こんなに反対の学校に行くのかと子どもたちに思わせるのはかわいそうな事ですので、より丁寧に説明をしていただきたいと思います。もうひとつは、もしこれが進んでいきますと、2年の計画の後、3年の改修工事を経て5年後に開校ということになると思いますけど、この3年の間に千鳥小学校と白水小学校の子どもたちは同じ学校に通うので、そこでコミュニティができと思うんです。そのなかでも柴田小学校は一番小さな学校なので、その小さな学校の子が大きな学校に飛び込むということはすごく大変なんです。私も経験しています。とても大変なことなので、このプランが進んでいくことになれば、その柴田小の子たちの心のケアとかそういうこともしっかりケアしていただければと思います。 ただいま、様々な学校の規模、通学路についてのご意見をいただきました。やはり委員の方から、人数は丁度いいのではないかとといったご意見もいただきましたけれども、クラス替えができないということで、人間関係につまづきができただけの場合にリセットができないという事も出てきてしまうと、6年間の間その状況を抱えたまま子どもたちが過ごさないといけないことから、我々としては統合によってクラス替えができる規模を確保してまいりたいと、そうした中で子どもたちが本当にいろいろな経験ができるようなそういった学校にしていきたいというところがございますので、しっかりと保護者の方、地域の方に丁寧に説明の方をさせていただきたいと思います。 今、委員の方からありましたご意見としまして、工事している3年の間に東校舎の千鳥小、白水小の子どもたちが最初に一緒になってコミュニティができてしまうので、柴田小の子どもが大きなところに飛び込むといった事が心配だとのご意見いただきましたけれども、一旦3年の工事のスタートの段階で統合校といたしましては開校いたしますので、東西校舎ということで様々な交流活動や例えば運動会とか様々な行事を一緒にやったりですとか、お一人の校長先生のもとで学校運営を行ってまいりますので、全く3年後に知らない人達と会うといったことはない様に、交流活動はしっかり進めていきたいと考えております。 また、他の委員の方からは、通学の安全対策とか熱中症対策のことについてしっかり対応をとったご意見いただきました。現状、学校の方では通学の安全対策につきましては、統合決定後、警察や土木事務所等、しっかり行政機関に働きかけをしてしっかり対策をとっていきたいと思っております。私が今別の所で担当しております港区の稲永小学校、野跡小学校の方では、統合は決定しておるのですが、統合の開校に向けて保護者の皆様、地域の皆様と一緒に統合校になる学校と一緒に歩いてみて、通学路の危険箇所等を洗い出して、今警察や土木に改善してほしいとの要望を求めているような状況でございます。

発言者	発 言
事務局	また、既にやられている学校もあると思いますが、地域の安全マップを改めて作って、こういった場所が危険だから、注意して歩きましょうですとか、交通のことだけではなくて、不審者が出やすい場所や暗い場所だとかありますといった事もお話ししながら、開校に向けて安全対策の取組等を進めているところでございますので、今回のケースでも統合決定したあかつきには、そういった形で様々な協議をしながら安全確保に取り組んでまいりたいと思っております。 また、地域の方で協力していただけるお店を作っていくことも大切とのお話で、子ども１１０番の家を増やすといったご意見もありました。警察の方で行っている見守りの家ということで不審者等が出た場合に駆け込めるような子ども１１０番の家。こういったものも、統合決定したあかつきには地域の方とご相談しながら、新たにご協力いただけるお店等を増やしていくといった事をお願いをしていけるといいのかなと思います。この学区、人が住んで見えるところの真ん中にバス通りがありまして、商店ですとか、コインランドリーですとか、病院ですとか、そういったお店はありますので、そういったところにご相談することもひとつの取組みなのかなと思います。 また、熱中症対策という事で、名古屋市の方でも施策としてクーリングスポットや避暑休みスポットを増やすということで、地域のお店に協力していただいて、体調が悪くなった時に冷房の効いているお店の中に駆け込んで座らせてもらうというようなそんな取組みもしているところでございます。地域の町の薬局さんですとか、そういったところにもお声かけさせていただいて、今徐々に増やしていっているという状況でございますので、熱中症対策につきましては、学校の方で先ほどおっしゃっていただいたようなネッククーラーですとか、日傘といった取り組みもしているところではございますけれども、そうした地域の中で熱中症対策の可能なお店を増やすという事の中で、子どもたちだけでなく、地域の方にとっても望ましい町にしていけることができるのではないかなと考えております。 また、跡地活用の点にもご心配いただきました。本当に伊勢湾台風で非常に被害の大きかったエリアで、学校が指定避難所という形で指定されているところでございます。統合校が開校したあかつきにも跡地につきましましては、これまでの統合校にしましても全て指定避難所に指定させていただいているところでございますので、防災の観点からも、このエリアはそういったご心配をたくさんいただいているというところでございますので、しっかりと防災の点につきましましてはしっかり確保できるように教育委員会としても役所の内部でしっかり確保していきたいと思っております。 友達関係の心配のお声があったんですけれども、建築の３年間の間、

発言者	発 言
	東西校舎の時が心配だとの話だったんですが、統合決定をしますと、そのあと2年間で新しい学校づくりを行っていき、そのあと3年で建設をして新校舎が完成するというスケジュールの中で、最初の学校づくりの2年間についても、違う学校と違う学校の子どもたちができるだけ円滑に友達関係が築けあげられるように交流活動を学校と共に話を進めながら行っています。具体的な例としましては、中津川の野外学習を同じ日程で設定をし、キャンプファイヤーを3校一緒に集う。ふれあいの丘というアスレチックと一緒に遊ぶ。それ以外にもプラネタリウムの学習の時に一緒に出掛ける。あとは校外学習を、同じ時間、同じ場所に行って、例えば低学年の子だと公園に花を見つけに行ったりとか、虫探しに行ったりすることもあるんですが、そういったところも同じ時間帯に合わせて行って、そのついでにレクリエーションをやるなど、いろんな交流は統合の前から考えていきます。その新しい学校になってどうするかということについても、関係の学校の校長先生、教頭先生、教務の先生と教育委員会の私みたいな教員出身のものが、定期的にどんな学校にしていくなかということ、細かなことも相談しながら、交流活動についても話し合いをしながら進めていくという風になっています。 内山小学校と大和小学校が令和8年度に開校するんですが、先日、内山小学校で作品展が行われました。その作品展に大和小の子たちが見に行く。更に、見た感想を、カードに書いて壁に貼り付けてくるという交流も統合前から進めているところです。あと、やっぱり子どもたちというのは、新しい環境に入るという事で、心のケアが心配になってくると思いますが、先日、今年度開校したたかしま小学校の例を考えますと、統合前のところで、スクールカウンセラーさんに、友達のなり方、どうしたら上手く友達になれるかという授業をやってもらい、一人ひとりスクールカウンセラーさんに関わるという取り組みもさせていただいております。統合した場合には、スクールカウンセラーさんの配置も手厚くするという事は考えているところです。
会長	事務局からの補足説明ございましたが、何かご質問、ご意見ございましたら。
委員	私も、子どもの学びの質の点を考えると、ある程度の学校規模というのは必要だと考えております。それで、小規模校の方が目が行き届くのではないかというご意見もありましたけれども、そういう側面もありながら、逆に、先ほど事務局からの説明にもありましたように、小規模であることの教員の配置と適正規模の教員の配置を考えますと、かなり適正規模の教員の配置が豊かになされることもあり、逆にそれだけ目が行き届くということもあるんです。ですので、集まったら余計大変になって、目が行き届かなくなった、過大規模校になると、もちろんそれぞれ

発言者	発 言
事務局	の人間関係も疎遠になってくるということもあるんですけれども、この程度の規模の学校であれば、その方が目が行き届きやすいということはあるかと思います。これからの統合の今回ご提示いただいたデータを見ますと、最も早くて令和12年ということになりますかね。そうしますと、ここで提示されているように、19学級規模の学校になるということになれば、十分目が行き届く規模の学校になると思います。そこまでのプロセスで、今、単学級の学校で急にこういう風になるわけではなく、少し時間がございますので、先ほど来説明のありましたように徐々に子どもたちの交流の範囲を広げ、事務局からご提示いただいた資料の中で、今の段階でのそれぞれの学校と地域との関りについて、我々推測をするしかなくて、データがなかったんですけれども、おそらく先ほどの委員からのご発言もあり、手厚く地域と連携してやってこられたのではないかと思いますので、その点、新しい学校になっても、これまでの地域との関り、中学校区でのまとまりと言いますか、連携協力体制を今の内から意識的に考えていくと、とてもいい中学校区ができていくのではないかと考えております。若干、不安に思っている点がありまして、是非、事務局の方をお願いしたいんですけれども、事務局としては、今日の参考資料1にありますように、これまでも丁寧ないろいろお話、ご説明を進めてこられたと思いますが、実際に地域の側、保護者の側といいますか、未就学のお子さんをお持ちのご家庭の保護者であるとか、まだ自分事として十分に意識されていないご家庭もあるのではないかと思います。機会としては十分説明会設けておられるんですが、参加率がまだ十分ではないようにもお見受けしますので、これから、何年後に今の段階としては、こういうことを考えていて、それがそれぞれの地域にお住いのお子さんにも関わっていくことだということを十分にご理解をいただく、更に自分事と考えられるように説明していただければと思います。 ありがとうございます。今、保護者の方への周知が十分に足りていないのではないかとのご意見いただきました。参考資料1の方で、今年の7月と8月に小学生の方、未就学児の方を対象に意見交換会という形で行いました。小学生の方への意見交換会6回ほど各小学校で開催いたしました。午前中と午後という事で計6回開催しまして、どこの会にお越しただいても千鳥学区の方が柴田にお越しただいても結構ですし、白水の方が千鳥にお越しただいても結構ですといった形でさせていただいております。結果といたしまして、世帯数ベースで申しますと、小学生でご参加いただいたのが、492世帯中10世帯12人の参加でございました、また8月、未就学児の親御さんに意見交換会をさせていただきましたけれども、住民登録のある方にこちらの方で行政目的ということで、住民登録を確認してお手紙出させていただいて、425世帯

発言者	発 言
事務局	中19世帯、35人の参加という事で、こちらもどの学区に参加いただいても結構ですという形でやらせていただいたんですけども、委員おしゃるとおり参加された人数は少なかったというところがあるのかなと思います。今後も保護者の方、地域の方に説明していく機会が出てきますので、しっかりと周知説明ができる体制を心がけて、また、自分事ととらえていただけるような形で、わかりやすく伝えるという事をやっていきたいと思います。 また、委員の方から統合が早くて令和12年とおしゃっていただいたんですけども、この資料の子どもの推移上、我々の推計がお示しできるのが令和12年度となっておりますので、12年度ということでおっしゃっていただいたのかなと思いますが、今、こちらの方審議会でご審議いただきまして、答申の方いただいて、令和6年度は年度末に近づいてきておりますので、仮に令和7年度に統合決定した場合は、令和10年度に統合校が東西校舎として開校いたしまして、10年度を含めまして、10、11、12年と工事の方、行ないまして、令和13年度に新校舎が完成するといったスケジュールになっております。 また、学校と地域の連携を引き続き継続をしてしっかり取り組みいただきたいとご意見をいただきました。現在、名古屋市の方では、地域組織との連携とか学校評議員制ということで、学校の方、地域の方にお入りいただきまして、様々なご意見をいただいて学校運営を進めているところですが、今後、コミュニティスクールといった取り組みも来年度以降教育委員会の方で取り組むといった予定になっておりますので、引き続き、地域の方、保護者の方とは、地域の課題等について意見交換をしながら学校運営に生かしていきたいと思っておりますのでございます。 先ほど、教員の配置という話を委員からいただいたとおもっています。適正規模の一定の人数がいるのは、子どもにとっていいというようにお話だったかとおもいますが、一方で、学校の運営する側、教員の側から考えた場合に、自分もやっていたという経験を基にお話させていただきたいと思っています。やっぱり、学校運営上、規模が小さいと、どの学校でも同じように学校の分担するお仕事、校務分掌というものが、どの学校でも同じようにあると考えますと、教員一人当たりの業務というのも、小規模校になると、教員一人が受け持つ校務分掌も増えてしまうという負担があります。あと、教員の配置のバランスが、偏ったものになってしまうという心配もあります。もう一つ、学校運営上の課題と言えば、小規模校だとできないこととして、私自身も単学級の小学校の担任を何度も勤めたことあるんですが、2クラス以上あれば、学年の先生が困った事象に対して、相談をするとか、協力することができます。運動会とか学芸会の行事についても、一人で全部考えてやるのと、二人で分担してやるのでは一人の担任の先生の負担が違うと思います。です

発言者	発 言
	ので、やっぱり一定の規模の学級であれば、担任の先生の負担が重くなることも避けられて、先生が元気であることというのは、最終的に子どもたちの前に立って、子どもたちに元気な姿を返していけることに繋がっていくと考えていますので、やっぱり一定程度の規模というのは、必要ではないのかなと、自分の経験上考えました。
会長	よろしいでしょうか。確認ですけれども、統合しても学区は変わらないということです。なので、3学区はそのまま、協力しあう体制を作れるかという問題になってくるという認識でよろしいですね。
事務局	会長おっしゃられたように、統合して子どもたちの通学する学校は一つになりますが、地域活動、学区単位はこれまで通り地域それぞれでやっていただく。これまでの統合校の事例につきましてもそれぞれの地域の方で活動いただきまして、現在も地域の行事ですとか、防災訓練なども行われているとお聞きしております。
会長	今、教員のチーム制も今言われたように、地域間のチーム制といいますか、協力というの進めていくような形が、今後統合した場合は想定されるという事でそういう風に考えてよろしいですかね。
事務局	統合校の開校に向けて、地域の方、保護者の方、ともになって、学校の開校準備に取り組んでまいります。その中で、安全対策の一環として110番の家を増やすとか、避暑的なスポットを増やすと言ったところの中で、子ども安全だけでなく、地域の様々な方の安全と言ったところの確保に取り組むといった中で、お互いにお互いの地域のことを思いながら連携をと取っていくというのはできるのではないかと考えております。
会長	いろいろご意見いただきました。よろしいでしょうか。 そうしますと、統合の取り組み自体について、委員の皆様も必要であると捉えていただいているように思いますが、事務局の説明にありましたとおり、ちょっと我々の心配しているところは、繰り返し地域や保護者に対する説明を行ってきたものの、地域から反対のご意見があったり、また、反対の署名活動も行われているところです。 この状況を踏まえると、もう一度審議会を開き、状況の変化を確認して、地域からの反対意見に対する教育委員会としての回答や対応案を示してもらった上で、先ほど回答や対応をしていただいたかと思えますけれども、改めて地域に対する取り組み、客観的な観点から審議することが望ましいと思っておりますが、もちろん今日、答申案を用意しているわけではありませので、もう一度この審議会を開かせて

発言者	発 言
事務局	いただくことが望ましいかなと思いますが、いかがでしょうか。 (異議なし) それでは、もう一度この会を開かせていただくという事で、そのように進めさせていただきます。ありがとうございました。それでは、最後に次第2「その他」でございますが、委員の皆様からご意見がございましたら、お願いいたします。 特にないようですので、以上をもちまして、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会を終了いたします。皆様ありがとうございました。それでは事務局にお返しいたします。 はい。会長ありがとうございました。委員の皆様、本日はお忙しい中、大変熱心なご審議をいただきまして誠にありがとうございました。傍聴者の方はここでご退室をお願いします。